



「こんにちは 市長です」

4月1日号

「三寒四温」は春がきたことの証。三寒に当たる日には寒風に向かって歩いて通勤はいかにもつらい、車ということになる。四温の日には空気いっぱい吸って「歩いて行こうか」となる。今日はたまたま暖かな日だ。保健センター前の中央公園を横切って中央小の脇道を太田駅方面に向かった。私が子どもの頃、駅前からこの辺りは田んぼが広がっていた。リヤカーの通るほどのあぜ道が曲がりくねって今の市役所の方につながる。もう少し日を重ねると公園のケヤキは真綿に包まれる。この日は3月11日、被災されたそれぞれの町の人たちも春を待つ穏やかな朝だったに違いない。いや、午後2時46分のその瞬間までは。

亡くなられた人は1万9747人、津波に襲われ立ちすくんだまま。2556人はまだ行方が分からない。被災された人たちはどんなにか恐怖であったか、想像に難くはない。町は消滅した。あれから10年、少しずつではあるが町が復元している様子をテレビを見て「復興」を感じている。そして数日後、原子力発電所の爆発は町を一変させ、市民生活を引きちぎった。後日、飯舘村を訪れた。飯舘村の菅野村長とは親しくしていた。「こんなに美しいまちが放射能に覆われているなんて信じられませんよ」村の地図を広げ、涙声であった。春を迎えるこの時季はまだ北風が残る。情報のないまま人々は（南風が吹いていたのに）北へ逃げたという。政府から全村民の避難指示が出ていた。村長に避難する気持ちはなかった。役場の玄関にはたくさんの生活物資が取り残されたみたいに高く積み重ねられていた。

あの時、太田への避難者は361人であった。10年後の今、太田で生活されている方は142人いらっしゃる。3月11日、午後2時46分、鎮魂と被災された方の幸せを願って黙とう。「夜空のトランペット」が市役所東の広場で演奏された。（3/14記）